

## こんな私でも

千葉県立清水高等学校一年（千葉県）

## 石井 秀羽

私はADHDで、注意欠陥で多動なところがあります。どう考えても茶道と対極にあるがさつな男が、なぜ高校で茶道部に入部したのか。そして曲がりなりに半年近く活動し続けることが出来たのか、振り返りたいと思います。中学での自分は、正直落ち着きがなく、随分先生方に迷惑を掛けたと思います。それでも、成績は悪いわけではなく、無事に志望校に合格しました。この清水高校を選んだ理由の一つは、姉の存在です。今年卒業した姉がこの高校の茶道部で副部長として活躍していたからです。家での姉は大人数しくて優しいというイメージで、人前で何かをするとうことはあまり考えられません。内気な性格のためか、あまりクラスには馴染めなかったようですが、茶道部のことはそれは楽しそうに話してくれました。自分は茶道なんてまったく縁がなく、想像することしか出来ませんでした。その楽しそうに話す姉の姿を見て、自分も茶道部に入って

みたいと思うようになりました。

体育館で部活動紹介があった日、迷わず茶道部に入部しました。先輩は優しそうな人ばかりで、自分が迷惑を掛けるのではないかと少し不安になりました。案の定、最初の割稽古で、水はぶちまけるわ茶筌は折るわで、先輩達と一緒に濡れた畳を拭いてくれました。それから、抹茶は当然ぶちまけるし、全然お点前は覚えられない。挙げ句の果てに、部活の活動日を失念してしまいました。それでも、顧問の先生は怒ることなく次の活動日を知らせて来てくれ、先輩は何度でも準備や片付けの仕方を教えてくれました。申し訳ないと思いますが、なかなかお点前を覚えることが出来ませんでした。一年生が他に二人後から入部してきましたが、とつくに抜かされてしまいました。他の一年生が運びの平点前に入った六月に、自分だけまだ盆略点前で苦戦していました。

それでも私には一つだけ、誰にも負けないことがあります。それは、誰よりもおいしくお茶をいただくことでした。茶道部と言ってもお菓子が目当てで、お茶はそんなに好きではないという部員は沢山います。今は自服のお稽古が基本なので、自分のお点前で点てた一碗のお茶を飲んで終わりというのが普通です。しかし私は、よく「お茶飲んでいいですか？」と聞いて、お点前の稽古以外でもお茶を点てて飲むことがあります。のどの渴きを潤すという目的

も当然ありますが、それ以上に何か落ち着く気がするのです。そして本当においしく感じるのです。これはひよっとして自分の多動性にも効果があるのではないかと思うくらいです。

まだまだお点前の覚えは悪いのですが、曲がりなりにお菓子を取り方、お茶の飲み方は出来るようになりました。胸を張ってとまでは言えませんが、恥ずかしくない程度には「僕は茶道部です」と言えるようになりました。「お茶が好き」という理由だけでも、十分だと先生には言われました。もつといろんな茶道を好きになり、上達していつか姉のように茶道部を引っ張っていく存在になりたいです。